

私たちはいかにして 分断を越えられるのか

～障害者福祉・へいスピーチ・生活保護から考える



< 基調講演 >

「人間の顔をした財政を取りもどす～『頼り合える社会』をめざして～」

井手 英策 (慶應義塾大学教授)

『財政から読みとく日本社会—君たちの未来のために』 『18歳からの格差論』 著者

2017. **6.17.土**

横浜市技能文化会館ホール
無料/150名(先着順)

日本では世帯所得が減りつづけ、中間層がやせ細り、低所得層化がはっきりと進んでいます。だれもが追い詰められるなか、弱者を切り捨てるだけでなく、切り捨てられた弱者が、さらに弱い者たちを差別する、そんな見るに堪えない社会になり始めています。だれもが犠牲者になり、そのなかでさらなる加害者と犠牲者が生まれる社会。弱者に対する優しさが失われ、不安を抱える者同士が傷つけ合う分断社会。そんな悲しい現実が、いま、私たちの目前に迫っています。そして、そこには障害や国籍あるいは民族による隣人との分断もあります。

この絶望を希望に変えることはできるのでしょうか？ 私たちはどうすればこの分断を越えることができるのでしょうか？ 誰もが人間らしく生きられるコミュニティ、そして市民社会をつくるためには何が求められているのでしょうか？

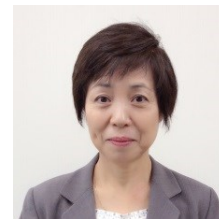
貧しいだけでなく、あらゆる人びとの生活を保障する。期待できない経済成長に依存せずに将来の不安を取り除く。そんな新しい社会モデルを提示し、また小田原市「生活保護行政のあり方検討会」で座長も務めた井手英策さんのお話、さらには県内の2つの実践・取り組みをもとに、私たちの未来のゆくえを探ります。

< パネルディスカッション > 「分断を越え、ともに生きる成熟した市民社会へ」

報告者

名里 晴美 (社会福祉法人訪問の家 理事長)

三浦 知人 (社会福祉法人青丘社 事務局長)



名里晴美氏



三浦知人氏

【プログラム】

- 13:20 受付開始
- 13:50 開会
- 14:00 基調講演/井手英策(慶應義塾大学経済学部教授)
「人間の顔をした財政を取りもどす～『頼り合える社会』をめざして～」
- 15:20 パネルディスカッション「分断を越え、ともに生きる成熟した市民社会へ」
司会: 林 義亮(神奈川新聞社取締役編集・NIE 担当論説主幹/
21世紀かながわ円卓会議運営委員)
- 16:30 井手先生よりコメント
- 16:40 閉会

井手英策(いで・えいさく) 慶應義塾大学経済学部教授

1972年福岡県久留米市生まれ。95年東京大学経済学部卒業。2000年東京大学大学院経済学研究科博士課程修了。日本銀行金融研究所、東北学院大学、横浜国立大学を経て現職。専門は財政社会学。著書に『経済の時代の終焉』(岩波書店)、『18歳からの格差論』(東洋経済新報社)、『分断社会ニッポン』(佐藤優・前原誠司との共著、朝日新聞出版)ほか。最新刊は『財政から読みとく日本社会—君たちの未来のために』(岩波ジュニア新書)。2015年度大佛次郎論壇賞、2016年度慶應義塾賞を受賞。

【主催】公益財団法人かながわ国際交流財団

【共催】神奈川県 / 一般社団法人インクルージョンネットかながわ / NPO法人エコまち / NPO法人外国人すまいサポートセンター / NPO法人びーのびーの

【協力】神奈川県立保健福祉大学(地域貢献研究センター) / NPO法人まちづくり情報センターかながわ / 七里が丘子ども若者支援研究所

パネルディスカッション「分断を超え、ともに生きる成熟した市民社会へ」／パネリスト紹介

◆社会福祉法人訪問の家 理事長 名里晴美(なり・はるみ)

社会福祉法人訪問の家は、法人設立以来30年を迎える。重症心身障害者といわれる重い障害のある人たちの通所施設が、まだ法律にない時代に、学校卒業後も通える場、集える場として、最初の施設「朋」を開設。横浜市栄区を中心に、磯子区・旭区においても障害者施設や障害者グループホーム、高齢者デイサービス事業等を展開し、現在27の事業所を運営。

朋開設当時の「目の前の人々が望んでいるであろうことを実現させよう」という精神は、今の訪問の家の理念「一人ひとりを大事に」につながっている。そしてまた「文化施設としての社会福祉施設」(創設者・日浦美智江の言葉)をめざし、これは訪問の家のもう一つの理念である「誰もが暮らしやすい社会づくり」につながっている。

◆社会福祉法人青丘社 事務局長 三浦知人(みうら・ともひと)

社会福祉法人青丘社は、関東では屈指の在日コリアン集住地域・川崎市川崎区桜本で、40年以上前から在日2世のコリアン住民が中心になって、民族差別に向き合う地域活動を推進。地域の具体的な生活の中で差別をなくし、ともに生きる地域社会を掲げて歩み、多様な生活課題に向き合う自発的活動が生まれてきた。

子育てを中心に教育、高齢者・障害者問題など、多様な分野の活動をにない、人権活動、文化活動、外国人支援活動、街づくり事業などを住民参加型事業として展開している。こうした取組みを踏まえ、ともに生きる地域づくりをまもり、在日コリアンに対する民族差別をおおるヘイトスピーチを解消する運動の中心となって、取り組んできている。

【申込み】

メールまたはFAXにて、氏名、所属、住所(市町村名まで)、メールアドレスをお書きの上、6月15日(木)までにお申し込みください(先着順)。定員を超えた場合にはお申込みをお断わりさせていただきますので、ご了承ください。

【申込先】メール：entaku@kifjp.org FAX：046-858-1210

【お問合せ】TEL：046-855-1821

公益財団法人かながわ国際交流財団 湘南国際村学術研究センター(清水・西山)

【会場】横浜市技能文化会館ホール(右図参照) <https://gibun.jp/gibun/access/>

・JR根岸線「関内駅」南口から徒歩5分

・横浜市営地下鉄ブルーライン「伊勢佐木長者町駅」出口2から徒歩3分



ふりがな 氏名		所属	
住所	(※市町村名までで結構です)	メールアドレス	
メール 案内希望	21世紀かながわ円卓会議はシリーズで開催予定です(以下ご参照)。メールで今後の円卓会議の開催情報をご希望される方はチェック☑をご記入ください。また財団主催の他の講演会のご案内もお送りさせていただきます。 <input type="checkbox"/> 申込み欄に記入したメールアドレスに案内を希望する		
◆この講演会のことをどこでお知りになりましたか?			

※今回の講演会お申込みにあたってご記入いただいた個人情報は当財団のみが取扱い、本講演会の事務連絡以外の目的には使用いたしません。

<ご案内>「21世紀かながわ円卓会議」連続シリーズ(全3回)

グローバル化の潮流のもとで、格差の拡大やそれに伴う貧困の拡がり、またコミュニティの崩壊などが社会的課題となっています。こうした課題の解決に向けた地域づくりについて、神奈川県内での現状を踏まえながら考える場を3回の連続シリーズで開催します。連続シリーズでは、「神奈川のコミュニティとグローバル化」をテーマとして、下記のプログラムのとおり、講演会、企画会議(勉強会)、シンポジウムを実施します。

① 今 回	【講演会】 6/17(土)@横浜市技能文化会館(関内) 【講演会形式/参加費無料/定員150名】 「私たちはいかにして分断を超えられるのか～障害者福祉・ヘイトスピーチ・生活保護から考える」 基調講演：井手英策(慶應義塾大学教授) パネルディスカッション：名里晴美(社会福祉法人訪問の家の理事長)、三浦知人(社会福祉法人青丘社事務局長) 小川泰子(社会福祉法人いきいき福祉会専務理事/21世紀かながわ円卓会議運営委員)
②	【企画会議】 7/30(日)@横浜情報文化センター(日本大通り) 【勉強会形式/実践者対象】 「分断を超えたコミュニティを育む市民社会のかたち(仮)」 講師：馬場拓也(社会福祉法人愛川舜寿会ミノワホーム常務理事)、早川仁美(地域のお茶の間研究所さろんど)
③	【シンポジウム】 11/11(土)10~17時(予定)@湘南国際村センター(葉山町) 【シンポジウム形式/参加費1,000円/定員50名】 「かながわから始まるall for allの社会(仮)」 モデレーター：井手英策(慶應義塾大学教授)

【21世紀かながわ円卓会議運営委員会】(五十音順)

小川泰子(社会福祉法人いきいき福祉会専務理事)
 榊山紘一(印刷博物館館長/東京大学名誉教授)
 黒田玲子(東京理科大学研究推進機構総合研究院教授/東京大学名誉教授)

高島肇久(株式会社海外通信・放送・郵便事業支援機構取締役会長)
 林 義亮(神奈川新聞社取締役編集・NIE担当論説主幹)